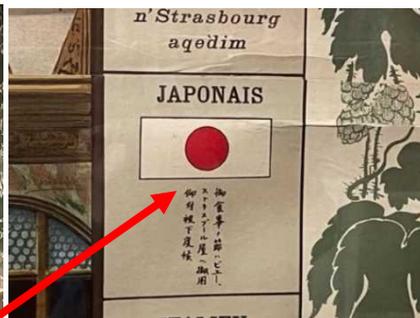


パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

130 パリ万博と日本（その2）（2022年9月29日）

前回に続いて、パリ万博と日本についてお話します。

1900年に開催された5回目のパリ万博で日本の事務総長を務めたのが、美術商の林忠正です。忠正については、以前にご紹介しました（*）が、パリで美術商を営み、日本美術の普及に努めました。1878年の万博に出品した起立工商会社の通訳としてフランスへ来た忠正は、万博に精通していました。豊富な経験を買われて、忠正は1900年の万博で日本を代表する事務総長に任命されました。オルセー美術館は、アルベール・バルトロメ作の林忠正のマスクを所蔵しています。マスクが作られるとは、いかに忠正が当時のフランス社会で知られた人物だったか分かります。



1900年の万博の際には、ストラスブールの旧市街にあるメゾン・カメルツェルを再現したレストランが設置され

ました。ここには、レストランやシネオラマ（円筒形のスクリーンに風景を映写して観客を包み込んだ全周映画シネオラマ）がありました。パリで開催されたある展覧会で、パリ市立カルナヴァレ美術館が所蔵するポスターを観ました。ポスターの外周には、各国やフランス国内の地方の旗が描かれ、その国や地方の言語で、「ビュー・ストラスブール屋で食事をお召し上がりください」と書かれており、日本語も目にすることができます。現在の国旗とは異なる国がある中で、日本の国旗は現在も変わりませんが、現代では使われない日本語で書かれており、120年の時の流れを感じます。

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

日本は、1925年にパリで開催された現代産業装飾芸術国際博覧会、通称アール・デコ博にも参加しました。日本館の設計は建築家の山田七五郎が選出され、実質設計は宮本岩吉が行いました。偶然にも、パリ郊外のクリニャンクールの蚤の市で、日本館の写真のポストカードを見つけました。小さな文字ですが、カードの下部には、二人の建築家の名前が印刷されています。カードのサイズは約14cm×約9cmで、現在のポストカードよりも小さいものです。当時のものを実際に目にすると、過去の出来事を身近に感じることができます。



パリ万博が開催された19世紀後半から20世紀前半はジャポニスムブームが起こり、フランスと日本の本格的な文化交流が始まった時代でした。その時代の歴史を語るものがフランス各地に残されており、それらを見ると当時の人々に思いを馳せることができます。

(*)

77 ジャポニスムと美術商・林忠正

<https://www.fr.emb-japan.go.jp/files/100229939.pdf>

注：美術館の展示は、変更されている可能性があります。